



マガンの北帰行する群れは北西方向へ急激に高度を上げていき、すぐに編隊を組みます。今年は寒波が厳しく、例年2月上旬の北帰行が遅れました。

Vol.141
令和3年度3月号

自然再生協議会が開催されました

2月5日に協議会がオンライン開催されました。沼の自然再生に係わる発表が行われ、財団からは、エトーン造成や希少種の復元状況に関する報告を行いました。宮城県環境対策課からは、希少種の復元を目的に湖岸に造成したエトーンで、水質汚濁が10分の1に抑制される可能性などの興味深い発表がありました。

希少種を復元しつつ、水質汚濁の抑制も図る理想的な対策を実施できるかもしれません。



人力による大変な造成作業でした。

第15回 伊豆沼・内沼研究集会開催



ライブ配信による発表の様子

第15回伊豆沼・内沼研究集会が、ライブ配信で開催されました。今回の研究集会では、深層学習を用いたトンボの自動検出と種判定、冬季凍結などの画像処理といった、近年のトレンドを反映した発表が行われました。これらの技術の実用化は、人手が不足しがちな調査の現場に役立つと期待されています。

その他では、伊豆沼・内沼のオオクチバス防除の取り組み、オオセスジイトンボの産卵行動に関する観察、伊豆沼で捕獲されたナマズの黄変個体の報告、GPSを装着したコクガン家族の追跡調査などの発表が行われました。

今回はコロナ禍の中での開催となりましたが、ライブ配信の視聴者数と発表者数の合計は、例年の参加人数を上回るなど、多くの方々に伊豆沼・内沼での保全活動を周知できたことと思います。



伊豆沼・内沼でのさまざまな研修会



「なごや市民大学」による視察



今年も伊豆沼・内沼を舞台にさまざまな団体による研修会が行われました。主なものとして、1月14日に東北地方のジオパーク関係者が集まった研究集会、15日には「なごや市民大学」による藤前干潟の保全活用に生かすための視察、20日には宮城教育大学関係者によるガンカモ類観察方法の研修がありました。

一斉清掃(野火)の実施にご協力下さい

日時 3月5日(土) 8:00~12:00

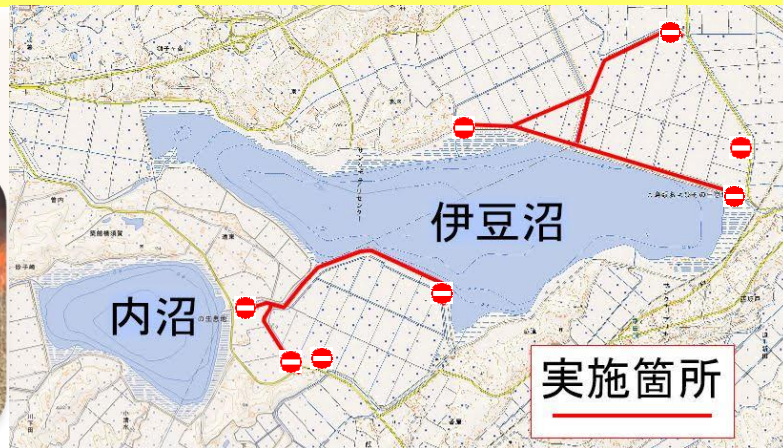
悪天候の場合は、3月12日(土)に順延

場所 伊豆沼第2・第3工区堤防敷き

伊豆沼・内沼の自然環境の復元と湿地保全のため、土地改良区、漁協と共同で、伊豆沼第2・第3工区堤防の野火(枯れ草の焼却)を実施します。



火災と間違えないようお願いします。



実施箇所

第61回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催します



コロナ感染予防のため、**事前参加申込方式**による開催となります。多くの皆様方の参加をお願いします。

◎マスクの着用を忘れずをお願いします。

◎発熱や風邪症状等がある場合、参加をご遠慮ください。

日時 3月21日(月) 春分の日 小雨決行

雨天の場合は、3月26日(土)に順延

開会8:30

集合場所 鳥館、昆虫館、淡水魚館

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ クジャクチョウ ～

クジャクチョウは、草原や湿原に多く見られるタテハチョウの仲間で、羽の模様が美しいことで知られています。わが国では、滋賀県以北に偏って分布しており、温暖な地域では標高の高い場所ではしか見られません。

このチョウは、成虫で越冬するため、春に草花が咲き出すと、いの一歩に活動を始めます。伊豆沼周辺では、明るい湿地の周辺に限定して生息しています。これは、食草のカラハナソウ(ビールに使われるホップの仲間)が多く自生しているためです。クジャクチョウの生息する環境は、開発や耕作放棄による管理放棄によって減少しています。クジャクチョウも遠くない未来に伊豆沼周辺から姿を消してしまうかもしれません。水鳥やハスで有名な伊豆沼・内沼ですが、このようなチョウも大切にしていきたいものです。



羽の裏側は
なんと!
真っ黒です。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

